

## 親に教えられること

園長 野中 泉

今月号の巻頭文は、みかん組の保護者 S さんとのリレー原稿になります。

S さん親子が、アトムに転園してきたのは、4 歳児すいか組のことでした。アトムに来たばかりの頃の T ちゃん（娘）は、どこかオドオドしていて、友だちのことを部屋の隅で遠目にじっと見ているような子でした。お母さんはと言えば、後のお母さんの文章を読んでもらえればわかるかと思いますが、まさに「肩で風切って歩き、怖い顔して」誰も（保育士も他の保護者も）私に話しかけるなよのオーラ全開、送迎のときのテラスで「おまえ、なにしとんじゃあ！」と T ちゃんを怒鳴りつける声が響き渡る日も珍しくありませんでした。

でも、今の彼女は、送迎時私たちだけでなく、他のお母さんたちとも笑顔で立ち話。泣いている他所の子を「大丈夫やで」と笑顔で抱き上げる優しいお母さん。あの頃とは別人のようです。その横で安心した顔で友だちとニコニコ遊ぶ T ちゃんも、あの頃とは別人のようです。お母さんに何があったのかは、本人が書いてくれた文章に任せますが、私も少し S さんとのエピソードを書きたいと思います。

ほんの 1 カ月ほど前、私とお母さんは役場の相談室にいました。保健師さんと子育て支援課の課長を前に啖呵を切る彼女。内容は、発達相談、親子相談を受けた後のフォローが不親切だということなのですが、当初私も、たぶん町の職員も、保護者が苦情を言いに来たのだとしか思っていました。でも、彼女のこの言葉に、ああこれは単なる苦情ではないのだとガツンと気づかされます。それは、こんな言葉でした。「私が、もしアトムに出会っていなかったら、あんな伝え方（あなたの子は遅れがありますだけ）では、私は自分の子を殺していたかもしれない」。殺すという強い言葉に身がすくみながら「それだけ、うまくいかない子育てに疲れ切っていて、自分の子育ては間違っているのかもしれないと、常に不安で孤独でいる親の気持ちが、あなたたちにわかりますか？もう、私みたいな辛いお母さんをひとりも出してほしくない」そう涙ながらに語る姿に私も涙が止まりませんでした。

アトムに出会わなかったら、自分も娘も路頭に迷っていたと言ってくれる彼女ですが、ではアトムがしたことは何か。ただ、母の話を聞き、子どものそのままの姿をオブラーントに包まず伝え、一緒に悩みうんうんと考えただけです。ひとつも、目新しいことはないし、奇抜なテクニックもない。とてもシンプルです。

でも、役場の小部屋で「誰も話しかけるなど肩で風切って歩いていた私を他のたちは遠巻きに見ていただけだけど、アトムの先生は、なんで怒ってるんよと手を掴んでくれた」とお母さんが言ってくれた言葉や、園のテラスで「今までお母さんの気持ちわかりますよ～と上っ面な優しい言葉をかける奴らは、お前にはわからんやろとしか思わなかった。でもしがちゃん（志賀保育士）は、悩んで相談したら、わかった T にも言うとくわなと言ったら、ほんまに本人に言ってくれる。うそつかへん、信じられる」と笑顔で彼女が話してくれたことに、自分たちの仕事の意味を、私たち自身も、もう一度深く考えさせられるのです。

## 変な保育園「アトム」に出会えたこと

S・A（みかん組）

それはすいか組のある日、お迎えに行ったときのいっちゃん（伊内保育士）との会話の中のことでした。

「うちの子もひまわり教室に通っているねん、色んな子がいてでこぼこがあったっていいよね～！」うちの娘のことを話していた流れで、いっちゃんが何気なく自分の子の話をしてくれたのですが、私の中では雷が落ちました。

「ああ～、やっぱり、うちの子変なんや」という気持ちでいっぱいになったのです。「やっぱり私の子育ては何かおかしいんだ…どうしたらしいんやろう…」悩んだ末に余裕のない私のとった行動は、アトムに電話をかけ、大激怒で何十分も「うちの子がひまわり教室

っていうんか！」と怒鳴り散らすことでした。今思えば毎日怖い顔して子どもに怒鳴っている私を気遣って声をかけてくれたに違いないのに、不安を何かで気を紛らわせたくての八つ当たりだったと思います。ごめんなさい。

その後、のなちゃん（野中園長）も含めいうっちゃんと3人で話し合うことに。2人ともしっかり私の話を聞いて受け止めてくれて、涙を浮かべながら真剣に向き合ってくれました。他人事なのにこんなに真剣に考えててくれるなんて…。そう感じた私は今まで溜め込んできることを話してみようと思えたのです。子育てについてずっと悩んでいたこと、例えば、わかっているくせに無視したり反抗的な態度に出たり、突然意味不明な行動をとる娘が全く理解できなくて、イライラしていること。子育てがちっとも思うようにいかない焦りなどを、とにかくあふれ出すように話し続けました。

すると、「うんうん」と聞いてくれていたのなちゃんが、「もしかするけど、わざと無視したり言われた事と違うことをしているんじゃなくて、本当に聞き取れていないだけかも！今日、おうちに帰ったら、いつもみたいに話してみた後に、怒らずに『ママ今なんて言ったー？』と聞きなおしてみて」早速家に帰ってみて実践。まさかのまさか。ほぼ聞き取れていないことに気づきました。「わざとじゃなかつたんや」。すると1つこんがらがっていた紐が解けたことでビックリするぐらい心が軽くなった気がしました。この時に人に相談してみるのもありなのかもしれない…と思えるようになったのです。たった、それだけのことで、怒鳴ったり怒ったりする事がぐんと減りました。

みかん組になり、新しい担任の先生になり、アトムに対し少し心を開きはじめていたわたしはしがちゃん（志賀保育士）に「うちの子って変じやない？何か園で迷惑かけていないですか？」と聞いてみました。するとしがちゃんは「めちゃくちゃ毎日おもしろいでー！！みてるだけで元気出るねん！！いつもパワーもらってるねんでー！！お母さんが心配してるようなことは、なんもしないよ！もしもなにかしていても、ちゃんと本人が納得いくまで話し合いしてるから大丈夫よー！任せといて！！」と太陽のような笑顔で言ってくれて、めちゃくちゃ励されました。

その後、それまでは行く気もなかった懇談会にともつきー（山本保育士）に誘われて出てみたら、色んなお母さんお父さんが正直に自分の子育ての悩みを話していて、私だけが悩んでいたんじゃないんや。みんな悩んだり、人には見せていないいろんなことがあるんだと話を聞いているうちに共感できることばっかりで、気づいたら涙が溢れて止まらなくなって、でも話を聞いていくうちに、どんどん心が軽くなっていました。

私は今までの事を思い返しながら改めて色々考えました。妊娠がわかった日から今日までのこと。

妊娠を知った日は嬉しくて楽しい子育てばかりを考えていた、産まれたらこんなことをしてあげたい！こんな風に育てよう！！希望と理想ばかり膨らんでいて…。でも、子育てはちっともうまくいかなくて思い描いていたことと現実の差に気持ちが追いつかなくて余裕のない自分をどんどん嫌いになっていきました。「こんなママの所に産んでしまってごめんね…他所のママだったらもっと幸せな子供になれたのに。ごめんね」こんなことをご飯を作りながら、洗濯をしながら、子供の寝顔を見る度に思っていました。自分自身の事も大嫌いで「いっそのこと私なんていない方が子供は幸せなんじゃないのかな…」そんなことを思っていた日もありました。でもその度に全力でママが好きだと表してくれる子供に何度も考え直させられどうにか自分を奮い立たせていたから、そんな自分を知られたくない、自分に鎧を着せてわざと肩で風を切って、誰も私に話しかけるなという空気を出していたのです。でも、そんな日々をズカズカと打ち破ってくれた先生達、周りのお母さんお父さんの言葉で救われました。

気持ちが軽くなつたいま、毎日寝る前に子供と笑いながら話をする時間が幸せで嬉しくて。子育てを楽しめている自分にビックリで。今まで全く読む気にもなれなかったアトムっ子も読むようになり作らなくとも笑顔が出るようになりまわりの保護者の方ともはなせるようになりました。子供も笑顔が増えのびのびと自由で元気で色々な話をしてくれるようになりここ数ヶ月でかなり私自身も子供も変わったと思います。人に話してみるその勇気がなかなかでず今までいたのが馬鹿らしくなりました。誰にも話せず悩みを打ち明けるのが恥ずかしいとすら思っていました。

最初は小さな1歩。でも踏み出してみてほんとに良かった。少し変わった保育園だけいまはアトムに来れてよかった。心から先生達と保護者のみなさんに感謝しています。ありがとう。